

復活節礼拝

司式 熊田雄二牧師

奏楽 五十嵐美代枝姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 78:1.2 輝く日を仰ぐとき

1. 輝く日を仰ぐ時 月星ながむる時 いかずち鳴りわたる時 まことのみ神を思う

讃えよ我が心よ 聖なるみ神を 讃えよ我が心よ 聖なるみ神を

2. 森にて鳥の音を聞き そびゆる山に登り 谷間の清き流れに まことのみ神を思う

讃えよ我が心よ 聖なるみ神を 讃えよ我が心よ 聖なるみ神を アーメン

* 開 会 祈 禱

聖 書 朗 読 ヨハネによる福音書3章16～21節

神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない。信じない者は既に裁かれている。神の独り子の名を信じていないからである。光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を選んだ。それが、もう裁きになっている。悪を行なう者は皆、光を憎み、その行いが明るみに出されるのを恐れて、光の方に来ないからである。しかし、真理を行なう者は光りの方に来る。その行いが神に導かれてなされたということが、明らかになるために。

* 賛 美 歌 78:3 み神は世人を愛し

み神は世人を愛し 独りの御子を下し 世人の救いのために十字架に架けたまえり 讃え

よ我が心よ 聖なるみ神を 讃えよ我が心よ 聖なるみ神を アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書15 復活節第二主日 主の復活

ちから しゅ かみ 力の主なる神さま、あなたの御子、わたしたちの主イエス・キリストの、えいこう み ふっかつ 栄光に満ちた復活を
おぼ み な こころ 覚えて、御名を心からほめたたえます。あなたは、みちから しゅ しにん なか ふっかつ 御力によって、主イエスを死人の中から復活さ
せられました。はか からよみがえられた しゅ は、わたしたちをつみ なわめ し おそ かいほう しょうり 墓からよみがえられた主は、わたしたちを罪の縄目と死の恐れから解放し、勝利
を宣言してくださいました。あなたは、すべ かれ しん もの かみ こ えいこう かがや じゆう 全て彼を信じる者に、神の子らの、栄光に輝く自由にあ
ずかる特権をお与えくださり、えいえん いのち やくそく かんしゃ いま 永遠の命を約束して下さったことを感謝します。今、よみがえり
の主が、わたしたちと共(とも)にいますことを覚えて、おぼ み な こころ さんび 御名を心から賛美します。(Iコリント15、
ローマ6～8)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東部中会会議を覚えて 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ルカ福音書6章20～26節（新約聖書112頁）

説教・祈祷 「幸いなるかな」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 78：4.5 天地造りし神は（ピアノ伴奏）

4. あめつち造りし神は 人をも造りかえて 正しく清き魂持つ身とならしめたもう

讃えよ我が心よ 聖なるみ神を 讃えよ我が心よ 聖なるみ神を

5. まもなく主イエスは来たり 我らを迎えたまわん いかなる喜びの日ぞ いかなる栄の

日ぞ

讃えよ我が心よ 聖なるみ神を 讃えよ我が心よ 聖なるみ神を アーメン

* 主の祈り 祈祷書1

てん
天にましますわれちちの父よ

ねが
願わくは御名をあげさせたまえ

みくに
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

われ
我らのにちようかてきょうあた
我らの日用の糧を 今日も与えたたまえ

われ
我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したたまえ

われ
我らを試みに会わせず 悪より救い出したたまえ

くに
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 68天つ御民も地にある者も

あまつ御民も地にある者も 父、子、御霊の神を讃えよ 神を讃えよ アーメン

* 祝 禱

後 奏 （黙禱）

報 告

古澤兵庫長老

イースター特別讃美 「すべてにまさって above all」 若月証兄弟

（ZOOMとHPで配信）

世界のすべてを創られて治める方

この世の知恵 力にも すべてにまさる方

世界の国々 その富と栄光さえ 比べることはできない

すべてにまさる方

十字架で苦しまれ 死なれた

薔薇のように孤独で踏みつけられても

私を愛してくださった

I マタイ福音書の「山上の説教」との違い

きょうのところは、マタイ福音書の「山上の説教」とよく似ていることに気が付くでしょう。似ているけれども違うなあということにも気が付くでしょう。

まず第一にページ数の量が違うことに気が付きます。ルカは2ページですが、マタイは7ページです。ルカはパウロの伝道旅行の時に加わった弟子ですから、生前のイエス様に会ったことはないので直接聞いていません。ですから、聞いた人から取材しないと書けません。ところが、マタイは直接聞いた人です。ルカがマタイから取材したのなら、同じ分量、同じ内容になる可能性がありますので、たぶん、マタイからではないでしょう。

他にも聞いた弟子は大勢いるのです。しかし、その大勢が同じように覚えているわけではないので、これも、話のズレや若干の違いが、証言者が複数いることの証拠となります。そして多くの弟子に聞いてみたら、マタイほど長くはないでしょう。マタイはマタイの執筆目的で、いろんな所でイエス様がお話なさったことをまとめているのです。それで長くなっているのです。

次に違うなあと思われるのは場面設定です。ルカ福音書では「山から下りて、平らな所にお立ちになった」のですが（17節）、マタイ福音書では、「山上の説教」と言われるように、イエスは山に登って腰を下ろして、近くに寄って来た弟子たちにお語りになったのです。マタイは「山上の説教」、ルカは「ふもとの説教」です。イエス様の権威ある御言葉は、山の上でも山の下でも、湖で舟からでも、あちこちで話されました。

ルカとマタイは、ほぼ同じ時期に福音書を書いています。すでに多くの人が手を着けており、『イエス語録』も出回っていた可能性があります。そこで、すべての事を初めから詳しく調べて順序正しく書くというのがルカの執筆方針です。

それにしても、場面設定で考えさせられるのは、マイクのない時代、どうやって大勢の群衆に語られたかです。ルカは、「弟子たちを見て言われた」とこの段落を始めるので、声が聞こえる範囲の数十名かなと思ったら、話終わった7章1節に「イエスは、民衆にこれらの言葉すべてを話して終えてから、カファルナウムに入られた」とあるので、「民衆」という規模だと分かります。

どれくらいの民衆かというと、「幸いなるかな」と話し始める前の段落、6章17節「イエスは彼らと一緒に山を下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびたしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、シドンとティルスと海岸地方から」とありますので、かなり大規模な「民衆」です。マタイ福音書でも同じです。「ガリラヤ、デカ

ポリス、エルサレム、ユダヤ、ヨルダン川の向こう側」からと大勢です（4:25）。

『聴くドラマ聖書』というのを私も聴いているのですが、この場面、イエス様役の人の声を聞くと、ボリュームが足りないのではないかと、思ってしまう。声優はマイクの前でしゃべっているのです。ギリシャ語の順番どおり「幸いなるかな」が先に来ると、もうちょっと大きい声で迫力が出ます。こういうところは日本語訳でも「幸いなるかな」が先に来る文語訳聖書の方が合っています。

山の上からとどろくような声というと、シナイ山で十戒を与えられた場面を連想します。主イエスにおいても、群衆は権威ある声に圧倒されて驚いたのです。福音書記者は、執筆している時点では「イエスは主である」、すなわち、「イエスはヤハウエ」であることを知っていますから、それを読者に連想させることができます。

II 幸いなるかな

「幸いなるかな」のメッセージを聴いた民衆の中には「病気をいやしていただくために来ていた」人々や、「汚れた霊に悩まされていた人々」もいました（6：18）。マタイでも「いろいろな病気や苦しみに悩む者、悪霊に取りつかれた者、てんかんの者、中風の者など」がいました（4：24） イエス様はその人たちを癒されたのですけれども、悩み苦しむ者は「幸いなるかな」と言われたのです。

また、もっと言うと、「人の子＝キリスト」のゆえに、人々に憎まれ、追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである、喜び躍れと言われました（22.23節）。宗教は御利益をもたらすものだと思っていると、正反対のことを言われたのです。実際、復活されたイエスに会った使徒たちは、その後、「イエスの名のために辱めを受けるほどの者とされたことを喜び、・・・メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた」のです（使徒5：41.42）。迫害されればされるほど信仰が燃えるのは、キリストの「幸いなるかな」の声が心の中でどンドンどンドン大きくなるからです。

今、私たちは、ハッキリした迫害の中にはいません。キリシタン迫害の時代ではありません。むしろ、キリスト教も取り込まれているような精神文化の中に置かれています。クリスマスもイースターも取り込まれていますし、その他キリスト教らしきもの、バレンタインやハロウィンなども年中行事に取り込まれています。「神社、お寺、教会、全部付き合い合いますよ、神道、仏教、キリスト教、何にでもお付き合いする「宗教的多元主義」が日本人ですよ」、という声に取り囲まれています。「私はクリスチャンですからキリストの声だけに聴きます」という人は少ないのです。「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道も広い、そして、そこから入る者は多い。命に通じる門は狭く、その道も細い。そして、それを見い出す者は少ない。」これがキリストの声です（マタイ7：13.14）

世俗化は迫害より恐いのです。だから、異邦人の使徒パウロのお供をしたルカは、異邦人社会で起こりそうなことに魂のセンサーを働かせています。マタイとルカのもう一つの決定的な違いは、ルカは「幸いなるかな」と「災いなるかな」をセットにしていることです。マタイは、ユダヤ人にイエスがキリストであることを証言しているので、ユダヤ教の独りよがりの選民思想を問題にするのですが、ルカは異邦人に「宗教を混ぜてはいけません、キリストのみですよ」と宣教しました。

そこで、あれにもこれにも付き合っただけを警告しています。「富んでいるあなたがたは不幸である。」、「今満腹している人々、あなたがたは不幸である。」、「すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。」「不幸である」という言葉が、文語訳聖書では、文の最初に「わざわざいなるかな」と来ます。「わざわざ」には「禍害」という漢字が使われています。禍害の禍は「コロナ禍」の禍です。私たちは今災いの中にいますので、「禍害」を「かがい」と読むことができます。

文語訳聖書ではその「禍害」に「わざわざ(わざはひ)」とふりがなが付いていますが、「富んでいるあなたがた、満腹しているあなたがた、すべての人にほめられるあなたがたは」、自分が「不幸である」だけでなく、「禍害」をもたらす「加害」者であると言っているのです。この文頭に来る「災いなるかな」は、ギリシャ語では「ウーア」という言葉の複数形「ウーアイ」ですが、英語訳では「ウオエ Woe」となっています。なんだかそのまま日本語でもそうした方がよさそうです。「オエーッ」です。自分が不幸だけでなく、他人も「オエーッ」とくるのです。

ここまで来ると、やはり、マタイ福音書との違いでいきなり目立つのは、最初の「心の貧しい人々は幸いである」とマタイが言っているところを、ルカは単に「貧しい人々」と言っていることです。理由は、マタイが「天の国はその人たちのものである」、ルカが「神の国はあなたがたのものである」と同じですから、おもに「心の貧しさ」なのですが、ルカは物理的貧しさも加えているように読めます。

またここまで来ると、マタイ福音書が三人称複数形で「その人たちは幸いである」と言っているのに対し、ルカ福音書では二人称複数形で「あなたがたは幸いである」と言っていることにも気が付きます。「その人たちは幸いである」と言うと、権威ある神の格言のように聞こえます。「あなたがたは幸いである」と言うと、私たちに語られているメッセージのように聞こえます。

Ⅲ 幸いなるかなと災いなるかな

今、私たちはハッキリした迫害の中にはいませんが、世俗化は迫害よりも恐いことを覚えましょう。迫害は外部からの攻撃、世俗化は内部からの崩壊です。そこで、私たちが、今、実際に貧しさや病気に飢えて泣いていることを、なぜイエス様は幸いだと言われるのか、考えてみましょう。福音書では、群衆が悩み苦しんでいることに、イエス様は一時的解決となる癒しという奇跡的な御利益はお与えになりましたが、むしろ、悩み苦しんでいること自体が幸いだと言われたことの真意です。実際、群衆は病気を治してもらうことやパンの奇跡で満腹させてもらうことに心があって、教えを聴くことに心があるのは少数でした。実際、癒された人々は喜びましたが、多くの人々は「誰にも言わないように」というイエス様の言葉には従いませんでした。

ルカはパウロの弟子ですので、パウロの手紙からイエス様の真意を考えてみましょう。どの手紙からも主イエスのメッセージを読み取ることができますが、いちばんはっきりしているのは、パウロ自身が自分の病気を癒してくださるよう祈った箇所です。第二コリント12:7~10。「また、あまりに多くの啓示を受けたため、それで思い上がることをないようにと、私の体に一つの棘が与えられました。それは、思い上がらないように、私を打つために、サタンから送られた使いです。この使いについて、離れ去らせてくださるよう

に、私は三度主に願いました。ところが主は、「私の恵みはあなたに十分である。力は弱さの中で完全に現れるのだ」と言われました。だから、キリストの力が私に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、私は、弱さ、侮辱、困窮、迫害、行き詰りの中にあっても、キリストのために喜んでいます。なぜなら、私は、弱いときにこそ強いからです。」（聖書協会共同訳）

パウロは十字架の場面に居合わせなかったのに、パウロがお会いしたイエス様は、すでに死を打ち破って復活された主イエスです。私たちがお会いするのも、すでに死を打ち破って復活された主イエスです。人間に不幸と死をもたらす悪魔に勝利されたイエスです。

だから、「幸いなるかな」には、二つの内容があります。一つは十字架のイエスにあずかる者は幸いであるということ。キリストの貧しさ・悲しさ・苦しき・死にあずかる者は幸いであるということ。キリストの力は弱さの中でこそ十分に発揮されるから、弱いときこそ私は強いという信仰です。

もう一つは、復活のイエスにあずかる者は幸いであるということ。その人たちはキリストの力を受けて神の子たちとされ、天国はその人たちのものであると言われたように、神の国を受け継いでキリストの働きを共にする栄光を受けることです。自分の栄光を表そうとして思い上がることは恐るべき滅びの道ですから、神はサタンを使ってでも私の体に棘を与えられたという、高ぶりが砕かれた心です。

復活節はキリストの受難と復活を深く瞑想する時です。自分の罪の大きさ、世界の悲惨の大きさに気づくと、創造主から救い主を与えられたことの感謝が大きくなります。罪人を再生して被造物を再創造なさることこそが、創造主の真意であることを知ります。そこで、新しい自分と新しい世界の誕生に希望を持つのです。

復活とか天国とか、神の子らと神の国とかは、この世で富んでいると心が向きにくいのです。今満腹していると心が向きにくいのです。この世で人からの栄光を受けていると心が向きにくいのです。神の第一の創造は、私たち人間の罪と墮落で悲惨な状態になりました。その中でうるおうことは異常です。そんなことには満足しないで、神の第二の創造に心を向けましょう。その中心こそイエス・キリストであり、第二の創造のキーパーソンです。

そもそも、第一の天地が作られる前から、「天地創造の前に、神は私たちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました」（エフェソ1:4）。ですから、キリストにおける罪人の再生、うめいている被造物の再創造が、始めから神の真意でした。神の愛を受け取りましょう。